

2004年度評価との対照による授業方法の見直し

幼児教育講座・深田昭三

1. 本授業の位置づけ

本授業は、2回生対象の幼稚園教育要領及び、保育所保育指針の領域「言葉」の指導法を取り扱う科目である。幼稚園1種免許状の必修科目、2種免許状の選択科目であり、幼年教育専修及び保育士コースの必修科目でもある。

本年度の受講生は25人であり、学年別では2回生13人、3回生11人、課程別では学校教育教員養成課程14人（うち幼年教育専修6人）、特別支援教育教員養成課程10人であり、そのほか科目等履修生1人が受講した。

2. 授業の特色

本授業では、(1)重要語句の箇所に穴を開けたプリントを配布し、教示内容はパワーポイントで提示する、

(2)乳児や幼児になじみのうすい学生の理解を促進するため、数分程度にカットしたテレビ番組やYoutube動画をパワーポイントに組み込んで提示する、(3)授業後に感想や質問を書いてもらい、次時の冒頭でパワーポイント提示をしながら答えるなどの取組を行った。

授業時間外学習の促進に関わる取組としては、(1)「Show & Tell」と称し、何かのモノを持ってきて、それについて2～3分程度のスピーチを行い、フロアの学生と質疑応答をすること、(2)中間レポートを課し、それをレポート文集として印刷して全員に配布すること（図1参照）、(3)絵本の読み聞かせ（絵本読みへの導入を含む）を課し、受講者を前にして読み聞かせることなどの取組を行った。

表1. 2004年度アンケートと2014年度アンケートの結果とその比較

質問項目 *1	2004年度		2014年度		平均の差	t値
	平均	標準偏差	平均	標準偏差		
授業時間外学習についての自己評定						
1 予習・復習 *2	1.03	0.16	1.94	0.93	0.91	3.90 **
授業の各側面に対する評価						
2 学生意欲	4.32	0.57	4.50	0.63	0.18	1.05
3 分かりやすさ	4.47	0.51	4.56	0.51	0.09	0.59
4 適切な進度	3.79	0.87	4.25	0.58	0.46	1.93
5 関心興味	4.58	0.64	4.81	0.40	0.23	1.61
6 有用性	4.63	0.59	4.69	0.60	0.06	0.32
7 メディア使用	4.65	0.48	4.75	0.45	0.10	0.72
8 コミュニケーション	4.58	0.55	4.13	0.81	-0.45	-2.40 *
9 教員意欲	4.68	0.47	4.69	0.87	0.00	0.02
10 満足度	4.50	0.56	4.75	0.45	0.25	1.74
11 おすすめ度	4.58	0.60	4.56	0.63	-0.02	-0.09
2～11の平均	4.48		4.57		0.09	
授業の取組への評価						
12 パワーポイント	4.61	0.64	4.56	0.51	-0.04	-0.24
13 ビデオ視聴	4.63	0.67	4.94	0.25	0.31	2.43 *
14 穴あきプリント	4.37	0.79	4.75	0.45	0.38	2.25 *
15 感想紹介	4.47	0.65	4.56	0.63	0.09	0.46
16 Show & Tell	4.68	0.47	4.56	0.73	-0.11	-0.57
17 絵本読み *3	—	—	4.75	0.58	—	—
12～17の平均	4.55		4.69		0.14	

*1 1（全くそう思わない）～5（強くそう思う）までの5段階評定。

*2 予習・復習に関しては、130分未満、230分程度、31時間未満、41時間以上、52時間以上

*3 2004年には絵本読みを実施していない。

3. 授業アンケートの結果

授業アンケートは、(1)授業外学習の時間を問う質問、(2)授業に対して各側面からの評価を行う質問と、(3)授業の工夫点が良かったかどうかを問う質問について、すべて1から5までの5段階評定を求めた。ちょうど10年前になる2004年度にも「言葉の指導法」で本報告を行っており、その際にほぼ同じ質問項目のアンケートを実施していた。そのため、2004年度のデータと今年度のデータの比較を行い、その結果を表1に示した。なお、今年度はアンケート日に他の学内行事と重なっている学生がいたため、回答数は16人とかなり少ない回答しか得られなかった。2004年度の回答数は38人であった。

まず全体の傾向としては、予習・復習の時間をのぞき、両年度とも授業の各側面に対する評価と授業の取組への評価は、おおむね高い平均評定値を得た(2004年度の最小値 3.79; 最大値 4.68, 2014年度の最小値 4.13; 2014年度の最大値 4.94)。

予習・復習の時間については、2004年度時点ではほぼ全員(97.4%)が30分未満であったのに対し、2014年度では30分未満が37.5%、30分程度が37.5%、1時間未満が

18.8%、1時間以上が6.3%とある程度の改善が見られた。2004年度よりも予習・復習時間が増え、2014年度との差は統計的にも有意であるが、依然として十分な授業学習時間とは言いがたい。

その他の項目で2004年度と2014年度で有意な差が認められたのは、授業内容への質問・意見発表の機会が与えられたのかどうかを問う「コミュニケーション」で評定値が有意に下がった点と、「ビデオ視聴」と「穴あきプリント」に対する評定値が有意に上がっていた点であった。

「コミュニケーション」に関しては、絵本読みに2コマを費やすことになった関係で、授業内容に対する質疑応答の機会が欠けがちであることがその原因と思われる。そのため、授業内コミュニケーションを促進する方策を考える必要があるであろう。一方で、「ビデオ視聴」と「穴あきプリント」の評定値が上がったのは、Youtubeを含め、授業内容に沿いながらも、より生活実感にあふれた動画が提示できていること、あるいは配布プリントが毎年の見直しを経て完成度が上がってきていることが原因として考えられる。

4. 自由記述による評価

アンケートの末尾には、授業への感想を自由記述によって述べるように求めた。その結果、次のような回答が得られた。

- ・ 学生 A: 授業中に行われた Show & Tell が楽しかったです。一人一人で思い出のものが異なっており、その思い出の話も違って面白いなと思いました。



図 1. 平成 24 年度～26 年度のレポート文集

- ・ 学生 B: 動画を見ることで、子どもたちが一生懸命チャレンジしていたり、楽しみながら学んでいたりする姿を想像しながら授業を受けることができたと思う。
- ・ 学生 C: ところどころに入る映像での説明も印象に残ったものが多く、先生の話し方や授業の進むスピードも丁度良かったので、受講できて良かったです。
- ・ 学生 D: 感想文へのコメントが、とても良かったと思います。(略) 感想を紹介することで、他の人が何を考えているのかが分かって、考え方の参考になりました。

総じて授業中に使った動画や Show & Tell が強く印象に残ったようで、多くの学生が良かったとの感想を寄せてくれた。感想文へのコメントに言及した学生は上で取り上げた1人のみであった。なお、授業の改善点や要望については、特に意見はなかった。

5. 総括

2004年度段階では授業時間外学習がほとんど行われずに等しい状況であったのに対し、この10年間である程度の改善が見られることが明らかになった。しかしながら、平均30分程度の学習時間ではまだ十分なものとは言えない。学生が自主的・自立的に学習を行い、それと授業の内容とが絡まるような工夫をさらに行っていく必要がある。

また、授業内容に対する質疑応答の機会が欠けがちであることが、10年前との比較で明らかになった。授業時間はタイトであるものの、質疑応答の時間を積極的に作っていくことが必要であろう。